

海外紹介

世界の鍼灸コミュニケーション(12)
～アルゼンチンの鍼灸事情～

相馬英樹

Hideki SOHMA

近年アルゼンチンでは鍼灸はじめ東洋手技療法に対する認識が高まり、その治療を受けるものが多くなった。これは東洋手技療法が各種疾患に多大の効果を挙げ、多くの人々の理解と信頼を得たものと推察される。嘗ての苦難の時代を想えば隔世の感があり、この道に携わるものの一人として喜びに堪えない。

当国で東洋手技療法の効用が一般に認識されるようになったのはごく最近、おそらく十数年前から徐々に浸透して来たものと思われる。それ以前にも、小敷ながら日本人・中国人の中に治療活動を行い、日に数十人の患者を診る人もあった。しかしそれは特殊なケースで、一般的には、馴染みの薄い療法であった。私は二十数年前当地で指圧・整体の治療を始めたが、当時は鍼治療(acupuntura)とか灸(moxabustión)の名は知られていたものの、「指圧」ということばを知る人も殆どなく、masaje japonés(日本式マッサージ)とかdigito-puntura(渡邊註:「指による鍼」といったニュアンスの造語と思われる。鍼治療をスペイン語ではacupuncture、鍼のことはaguja、指はdedoという。「指の」という形容詞はdigital)などという表現で治療したものであった。その頃美容やリラクセスを主とするオイルマッサージが流行

していたためか、一般のマッサージ師は多数存在していた。その中で「日本のマッサージは一味違う、よく効く」とよく云われたのが印象に残っている。

アルゼンチンにおける東洋医学

アルゼンチンは古くから西洋医学の発達した国で医療水準は高く、当然医学の主流は西洋医学である。しかし南米でも水準の高いこの国の西洋医学にあきたらず、東洋医学、とくに鍼灸学を研究する医師がかなり前から存在していた。30年余り前、Dr. CarballoやDr. Shusmanなどが中国で鍼灸の研鑽を積んだ後、当地で鍼灸の研究団体を設立し、多くの医師を指導したといわれる。またそれ



於 相馬治療院。右側が小生

以前にもドイツやフランスで鍼灸を研修してきた医師も多数あったということである。

当国の鍼治療は中国の影響が強いと云われる。しかしこの国はヨーロッパの延長と云われる程西欧文化の影響が強く、すべてに於いて西欧との交流が盛んであったので、当然ヨーロッパで研修して来たものの方が多かったと考えられる。何れにしても当国の鍼には、西欧派と中国派があって両派の対抗意識はかなり強く、以前は何かと反発しあっていたらしいが、最近はそのような話もあまり聞かれなくなった。18年前からは中国との間に医学学術協定が結ばれて、交流が盛んになっている。数年前中国から鍼灸師数名が招聘され、主として鍼麻酔の指導を行って大きな反響を呼んだことがあった。これまで西洋医学一辺倒だった当局が、鍼麻酔にせよ東洋医学に目を向けたことは一大変革と云えると思う。

鍼灸に関する法律規制：

アルゼンチンの法律では、鍼治療は医師だけに許された医療で、医師以外のものの施術は禁じられている。厳密に言えば鍼灸だけでなく、東洋手技療法一般が医療行為としてその規制の対象になる。南米諸国何れも同様のようである。嘗てはこの規制も相当厳しかったらしいが現在はかなり緩和され、外国人療術師が規制の対象になったという話は聞かれなくなった。

アルゼンチンには日本のような手技療法の専門学校がなく、その制度も確立されていない。従って外国人が治療を行うには、この国の大学で学び、それなりの資格を取得しなければならない。医師になるには最低7~8年の期間が必要である。また日本の柔整師に似たtraumatólogoと呼ばれる専門職になるにも、大学(別科)で5~6年の修行を要する。スペイン語その他の学力はもとより、時間的にも経済的にも、移住して来た外国人には無理なことであろうと思われる。

しかしこの道が一切閉鎖されているという訳でもない。一つにはマッサージ師の資格で営業する方法がある。これにも細かい規制があるが、医師と共同で開業したり、名前を借りて営業するということがあり、外国人療術師はこの方法を取って

いることが多い実情である。

最近では当局による規制が随分緩和されて来ている。その理由としては次のようなことが考えられる。

1. 鍼灸はじめ東洋手技療法が各種疾患に著しい効果を挙げ治癒率を高めている。
2. 薬物治療を用いない東洋手技療法の効果に大衆が関心を示すようになった。

これは全身治療を旨とする東洋医学が、副作用等の弊害のない自然療法であるということが認識されたことが大きいと思われる。

3. 一般の病院の治療と違ってコミュニケーションが良く、診療が懇切丁寧で、一般大衆が東洋医学の効果を理解し絶大な信頼を寄せている。

おそらくこの他にもいくつかの要因があって、この国に「必要欠くべからざる治療法」の一つとなったということが、当局の重い腰を上げさせたものと推察される。そのもとになったのは、諸先輩をはじめとする各療術師の、地道ながらまじめな治療活動が実を結んで、当国社会に対する貢献度が評価されたことにあるのは疑いない所だと思う。

鍼をとりまく環境の現状：

現在当国では医師が過剰で、その上慢性的な不況のため、仕事のない医師が沢山いる。また当国には運動・マッサージなどによる治療をする資格のあるkinesiólogoという職種がある。これは鍼などの手技療法師に較べると、治療の専門家としては医師に近い立場にあるものであるが、資格を取得しても、ドクターとは呼ばれない。このキネシオロゴの治療の形態が我々の手技療法に類似しているため、対抗意識や反発心も強いものがある。

一方、近年規制が緩和されているせいか、我々のような療術師が急増している状況にある。おそらくその事態がキネシオロゴ達を刺激していることは、間違いない事実と思われる。今後当局が彼らの保護を含め、どのような対策を講ずるか気がかりな所である。

アルゼンチンは建国二百数十年と歴史の浅い国であるが、多くの国からの移民が多く、その集合体で国家が構成されているといえる。スペイン系



寺子屋式講習会。於 ブエノス相馬道場

はじめヨーロッパ民族が圧倒的に多く、出身地は二十数ヶ国にもなるということである。黒人はほとんどいない。全人口三千五百万人中、アジア系は日本・台湾・韓国を合わせても十五万人以下と僅かである。従って日常治療する患者の人種も多様を極めている。

受診の状況についていうと、以前この国の人々は、特に鍼灸に関しては、かなり神経質な態度をとっていた。おそらく東洋医学に対する認識不足から、鍼という注射針や縫い針を連想し(渡邊註 スペイン語では鍼も針も同じくagujaという)灸にいたっては「体に火をつける治療などは野蛮人のすることで以てのほか」と思っていた人が実に多くいた。その上当地の医師会などがマスコミで東洋医学の批判を滔々と述べるという始末で、一般民衆の東洋医学に対する心境も思い半ばに過ぎるものがあった。

しかし昨今は患者自身から「acupuntura」とか「okyu(当院では日本語の発音通りにオキユと呼んでいる)」と所望されることが多くなり、随分サマ変わりして来た。灸を好む患者も増えているが、強刺激や火傷痕がつくことは極端に嫌われる。鍼についても同様で、弱刺激の施術が喜ばれ

る。

当院の状況：

当院はブエノスアイレス市内にあり、私と妻の他に助手1名の3人で、手技(指圧・整体)と鍼灸による治療を行っている。

対象疾患で最も多いのは腰痛症や膝関節症で、次いで頸腕症候群等、脊椎障害の原因による病気が多く見られる。ブエノスアイレス市の人口は約三百万人、周辺を含むと八百万人位になる。そういう関係からか、ストレスが誘因となって起こる疾病も実に多い。時々アトピー性皮膚炎・パーキンソン病・癌などの患者が来院することがある。このような症例には対症療法を試みているが、効果が十分上がらないことも少なくない。このような患者には医師の許可証を持参して貰うことにしている。当院は重症の疾患などについては医師たちに相談し、連絡を密にしていることが特徴といえるかと思う。

2月下旬には大統領庁からの要請でメネン大統領の治療をする機会があった。妻が以前から大統領夫人と令嬢を治療していたのがご縁となったようである。大統領は風邪で5日間解熱せず、声が



於 小院。右が私で隣が妻

荒れて翌日の重要な会議の前に困っていたとのことであった。妻が往診して、マッサージの後鍼灸治療を、全部で1時間くらいした所、直後に平熱に戻り気分もよくなって、翌日の会議にも全く支障なく、大いに面目を施した。何よりも現職の大統領が東洋医学の治療を受けたことに大きな意義があるものと、嬉しく誇らしく思った次第であった。

鍼は使い捨てか個人用でないとならば大半の患者に治療を拒否される。私は最近まで日本製のディスポ・スーパー鍼を使っていたが、補充が見つからないので、今は当地で中国人が製造しているものを使っている。艾はすべて日本製のものを使用している。以前同業者が作った自家製の艾を使ったことがあるが、火力が強く不向きなので、温灸用等に使うだけにしている。

アルゼンチンの鍼灸界：

大別して、医師による鍼灸師協会・中国人（台湾系と本土系に分かれる）・韓国系・および日系人に分かれるが、互いに交流がないため詳細は不明である。しかしかなりの数の東洋人が鍼灸もしくは手技療法に従事していると推測される。

残念ながら日本の鍼灸の専門家が来亜されて、直接ご指導をいただくという機会は滅多に得られない。昨年は幸いに大阪鍼灸学校理事長の森秀太郎先生が所用のためおいでになり、その際無理にお願いして、コルドバ市とブエノスアイレス市で

講演をしていただくことができた。受講者一同深い感銘を受けたことはいうまでもない。願わくは今後、多くの日本の鍼灸専門の先生方が来亜されて、ご指導を頂きたいものと切望している。

当地の日経療術師の状況：

現在ブエノスアイレス市とその周辺（ブエノスアイレス州）には約二百人（十数年前の10倍）の日系療術師が治療活動をしているといわれ、おそらく今後更に増加して行くものと思われる。大半は何れの会にも所属していない一匹狼的存在で、その実態はなかなか把握できない。他州でも同様と思われる。

日系療術師の会としては次の3つがある。

1. 亜国日系東洋手技研究会（会長 宮城稔）

二十数年前設立され、現在会員数30余名。鍼灸だけ行うもの7～8名、手技と鍼灸が十数名、その他手技のみのもの及びこの治療法に興味をもつものとなっている。設立当初は中国人や韓国人の会員もあったが、現在は日本人のみとなっている。毎月1回、ブエノスアイレス市内で研修会を行っている。

2. 国際健康科学研究会（亜国支部長 相馬英樹）

11年前設立され、本部（会長 藤川誠勝元中央大学教授）は東京にあり、ブラジル・アルゼンチン・パラグアイに支部がある。アルゼンチンの正会員は現在16名で、准会員（ディプロマ未取得者）が三十数名いる。入会資格は日系・非日系を問わない。療術の内容は手技のみのものが多く、鍼灸と手技を行うものは数名である。会員には医師4名があり、医学生も多数会員になっている。これまでに3回、当地で東洋手技研修大会を大々的に開催し、内外からも好評を得た。

3. コルドバ鍼灸師協会（会長 小沢厚平）

ブエノスアイレス市の西約700キロにあるコルドバ市で、大阪鍼灸学校OBの小沢氏が開業して積極的に活動している。鍼灸を主体にして治療し、また多くの鍼灸師（医師を含む外人）を養成している。

以上誠に拙ない報告になってしまいましたが、今後も微力ながらも治療活動に精進して行きたい

考えですので、何卒皆様方のご指導ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

アルゼンチン鍼灸事情 Q & A

1. アルゼンチンで鍼灸をしている人の数
日本人二十数名（その他は不明）
2. アルゼンチンで鍼治療をするための資格
公式には医師以外ではできない
3. アルゼンチンの資格がなくて鍼治療をする方法は？
ある
(1) 医師のもとで
(2) 医師と共同経営で
(3) 医師の名前を借りて
4. 外国で取得した資格のまま鍼治療をすることができるか？
厳密にはできない。但し医学学術協定のある国のものではできると思う（例えばU.S.A.、中国、中南米諸国、日本など。日本とは協定がないが、特別扱いになっている）
5. 外国の資格を持っているものがアルゼンチンの資格を取る便法は？
ある
まず当国のマッサージ師の資格を取り、市または州の衛生局に申請する。
6. アルゼンチンの資格を取る方法
(1) 医大で医師の資格を取る
(2) マッサージ師の資格を取る
当国にはその専門学校がないため、その資格も非常に曖昧である。私立または市立の病院での講習を受ける、あるいは民間のマッサージ学校（学校といえないようなもの）で講習を受ける。
(3) 医大別科のKinesiologia（日本の柔整科に当たる）で勉強（5～6年）する。
(4) 国・公立大医学科の聴講生として何かの資格（老人福祉学など）を取る。
7. 灸治療は？
行われているが鍼より少ない。
8. 鍼治療を希望するものは？
西洋医学を希望するものより少ない。
9. 鍼を好きな理由

薬のような副作用がなく、疾患によっては即効性がある。

10. 鍼が嫌われる理由

- (1) 他の病気の感染を恐れて、共用の鍼は拒否される。
- (2) 強刺激（ひびき）をあまり好まない。
- (3) 韓国人・中国人が多く用いる長鍼を好まない（事故が多いため）。
- (4) 治療院が不衛生であることを嫌う。消毒に対しても厳しい。

11. 鍼に対する医師の反応

	医師全体の中 の大体の割合	この傾向の 強い診療科
鍼灸に積極的 自分でもする	10%以下	整形外科等
自分ではないが患者に 奨める	同上	同上
鍼灸に好意的 (積極的には奨めないが 反対はしない)	25%位	整形外科・ 内科一般等
鍼灸に好意的でない又は反感を持つ	50%以上	神経科・ 整形外科等

12. 鍼灸の診療施設の形

(1) 鍼灸専門施設

ある

アルゼンチン鍼師協会

医師のみ（他は個人の治療院）

(2) 西洋医の施設の中に併設されていることは？

ない

(3) 鍼灸師が経営者になることは？

できる

ブエノスアイレスで日系人が治療院を開業しているのは十数名。

他は大半往診専門

13. 鍼灸治療の状況

(1) 1回の治療時間

当院では40～60分

(2) 治療の頻度

週1～2回が多い

(3) 1日に診療する患者数

当院では6～8人、10人が限度

(4) 治療の対象として多い疾患・症状

腰痛症

膝・肘痛

頸腕症候群・五十肩・肩こり 等

不眠・イライラ・頭痛・耳鳴・高血圧など、

ストレスが関連している症状

外傷性疾患（捻挫など）

(5) 予約制について

取っている所が多い

(6) 診療時間

当院では午前9時～午後6時、昼休み2時間
を取る

(7) 1回の標準的治療費

40～50ペソ（日本円で4～5千円位）

14. アルゼンチンで鍼をしているものとしての希望

(1) 専門学校の必要性

当地では個人から習うものが多くあまり専門
的でないため、しっかりした基礎から勉強し
たい。

(2) 日本の鍼灸専門家から指導を受けたい。

(3) 公的に営業許可を認めて欲しい。

15. アルゼンチンの鍼灸に関する学会

(1) アルゼンチン鍼灸協会

当国の医師による、医師専用の会

(2) アルゼンチン日系東洋手技研究会

(3) 国際健康科学研究会

(4) コルドバ鍼灸研究会

以上(2)～(4)は日系人の会

(5) その他中国人・韓国人にも当然あると思わ
れるが不明

16. これからアルゼンチンに行って鍼灸治療をし
たいと思っている人へのアドバイス

(1) 永住権または市民権（＝帰化）を取らない
と営業できない。

(2) 病気をなおすことが最重要で、それなりの
技術が要求される。

(3) 患者とのコミュニケーションも大事なので、
ある程度のスペイン語の会話能力が必要（英
語はあまり通用しない）

通訳も可能であるが、それなりの費用がかか
る。

(4) 身体障害で悩める人を救おうとする強い心

構えを持つことが大切だと思う。

(5) 懇切丁寧な治療で患者の信頼を得ることが
大事である。

追記

全日本鍼灸学会国際部委員 渡邊 裕
ブエノスアイレスで鍼灸治療に関わっていた人
に永田守氏という知人がある。同氏にアルゼンチ
ンの鍼灸事情について質問した所、既に引退した
身であるとして、現役の相馬英樹氏を紹介された。
同氏から詳しいレポートを頂戴したので、相馬氏
と永田氏のご了解を得て本誌「世界の鍼灸コミュ
ニケーション」に紹介することとした。なお上記
「アルゼンチン鍼灸事情Q & A」は、永田守氏に
質問をしたものに対して相馬英樹氏より回答をい
ただいたものである。

相馬英樹氏略歴：

1943年青森県生まれ

1966～1971年 警視庁柔道教官（柔道7段）

1969～1970年 日本青年海外協力隊から柔道指
導員としてカンボジアに派遣（警察庁出向）

1971年 アルゼンチン柔道連盟の招聘で専任コ
ーチとして同国に渡る

故田村義継氏に師事して鍼灸を習得、現在
柔道・相撲の指導と鍼灸治療に従事している

役職：アルゼンチン日系東洋手技研究会理事

国際健康科学研究会副会長兼アルゼンチン
国支部長

相馬治療院院長